

(八) 徳本上人の碑

稲取小学校の西門前にある諏訪神社の前に
はいくつかの石造物があります。この中でひ
ときわ大きな碑には、独特な字で「南無
阿弥陀仏」と彫られています。この碑は、江
戸時代に伊豆を回った徳本上人という有名な
お坊さんの教えを伝えるものです。

徳本上人は、宝暦八年（一七五八年）に今
の和歌山県に生まれ、お坊さんとなって厳し
い修行を続けました。その後、江戸（今の東京）
の一行院のお坊さんとなり、各地に教えを広
めて回りました。

徳本上人が伊豆を回ったのは、文化十二年
（一八一五年）のことです。下田の人達の招
きで下田、伊東、熱海などの伊豆の東海岸を
回っています。稲取では九月十一日に東区に
ある正定寺で教えを広めています。

徳本上人の教えは、「南無阿弥陀仏」を唱え
ることで、亡くなった後に阿弥陀仏によつて

天国にあたる極楽に行くことを祈るもので
この教えが各地に広まりみんな「南無阿弥
陀仏」の念仏を唱える講と呼ばれる集まりが
できました。

この教えを広めるために石に「南無阿弥陀
仏」を刻んだ徳本上人の碑が伊豆の各地に建
てられました。稲取と奈良本のは、文政
二年（一八一九年）に建てられ、片瀬と白田
のものはその前の年に建てられています。

